



こちカフェ隊が行く

～宮城県東松島市新東名の巻～

活動成果発表 2013/3/2



※補足

この成果発表資料は、私たち「こちカフェ隊」が助成を受けている、世田谷まちづくりファンド「災害対策・復興まちづくり部門」の助成条件である、「被災地での活動、見聞きしたことの報告」及び、その体験から考えた私たちなりの「世田谷の災害に強いまちづくりへの還元」を目的として、2013年3月2日に開かれた成果発表会向けに作成した資料になります。

この世田谷まちづくりファンドは「被災地復興支援」の為に設立されたファンドではなく、「世田谷区における住民主体のまちづくりの促進」のために設立されたファンドであり、従来は世田谷区外での活動に対する助成は想定されていませんでした。

特に、「こちカフェ隊」が助成を受けた「災害対策・復興まちづくり部門」は2012年度に東日本大震災を受けて新設され、設立にあたってはファンド運営委員会で度重なる審議を重ねた結果、「被災地において各助成グループに、現地でしか経験できない貴重な経験を積むこと」こと、そしてその経験に基づき、「世田谷のまちづくりへ災害復興および対策に関する知識、経験、成果を還元し、区民と分かち合うこと」、この2つの条件双方を満たすことを助成の条件としております。

このような経緯から、この成果発表が「被災地支援」という視点ではなく、「被災地から学ぶ防災まちづくり」という視点での成果発表となっておりますことをあらかじめご理解の上、ご覧いただけますようお願いいたします。

こちカフェ隊 代表 上原 実彩子

活動のはじまり

この活動は本当に本当に偶然のひとつの出会いから始まりました。

縁もゆかりもなかった土地で、同じ思いを持つ被災者の方に出会えたこと。

「みんなで気兼ねなく集まれる場所を作りたい」

ボランティアのあまり来ない土地で、被災者の方自身が自分主体で頑張ろうとしてたからこそ、是非その思いを応援したいと思いました。

2011年10月30日
野蒜復興祭にて



「もうすぐ集会所ができるから、もっと人が集まる場所にするためにイベントを企画してほしい」

「集会所ができるころにカフェイベントを企画しますね」

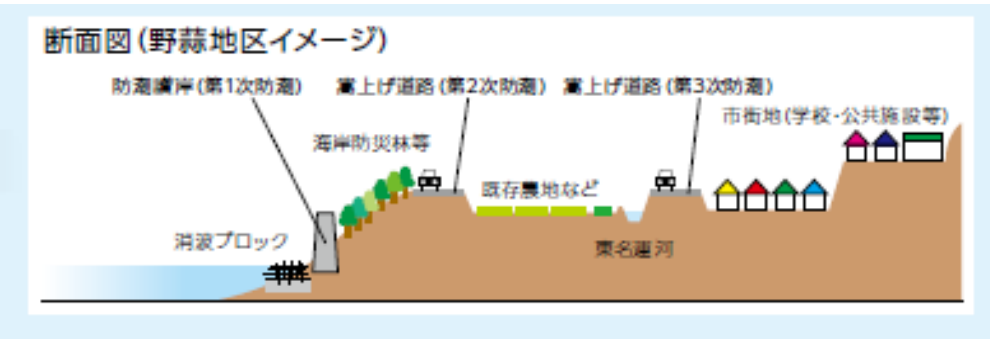
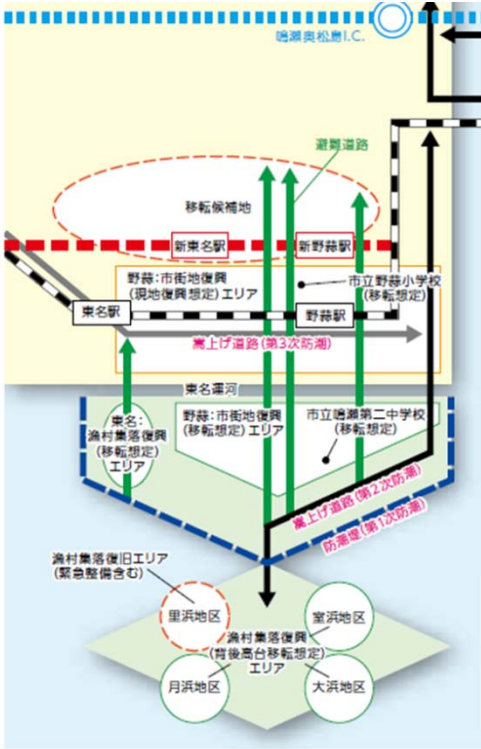
宮城県東松島市新東名



宮城県中部、石巻市と松島町にはさまれ、仙台湾沿岸に位置する東松島市。

新東名は野蒜地区の西側エリア。東松島でも被害の最も大きかった地域のひとつ。

東名運河より南は新東名よりさらに内陸の高台への集団移転が確定している。



※出典 東松島市復興まちづくり構想図

宮城県東松島市新東名



仙石線で仙台まで約1時間かつては駅近便利なベッドタウン。

震災以後、仙石線は高城町～矢本間で現在運休中
現在は松島海岸駅からの代行バスを利用してのアクセスになる。

東名駅と野蒜駅（標高2m）については集団移転計画に伴い、
500mほど内陸の高台（標高22m）への移転が決定。
復旧は2015年度いっぱいまでずれこむ予定。

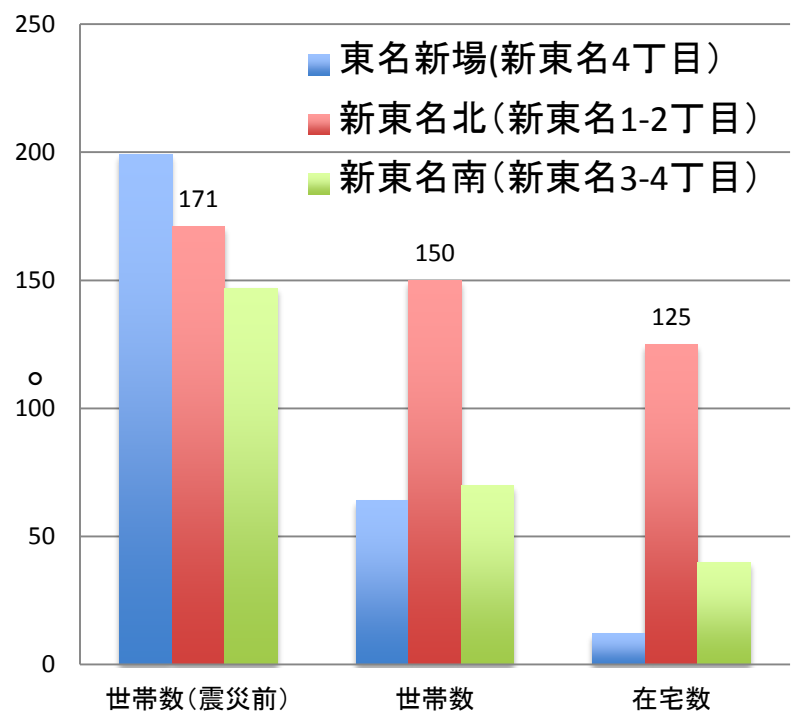


宮城県東松島市新東名

主な対象地域は、東名駅周辺の新東名1丁目～2丁目の新東名北エリア。
 南側の集団移転エリア同様に、仮設住宅⇒高台移転のまちづくり計画に乗ることも住宅を修繕し住み続けることもできる。





在宅避難世帯数が125世帯/171世帯と周辺地域に比べても格段に多い。
 特に、最近では建築ラッシュでこの地に戻ってくる人が増えており、人口は増加傾向。



⇒とはいえ、この地区に住み続けることは、
 周辺地区も含めた全体の基本的なまちづくり構想（高台移転）とは異なる動き。



集まれる場所を得るまで

「集会所でカフェをやる」という約束をしたものの、実現までに1年半かかりました。

年	月	空き家再生1	空き家再生2	空き家再生3	集会所	こちカフェ隊				
2011	8	 <p>東京からのボランティアが地域の方が集まる場所と自身の宿泊場所を兼ねて修繕。修繕をしたボランティアの帰京後数ヶ月で、諸事情により別の場所への移転を決める。</p>	 <p>新東名地域の住民がボランティアのサポートを受けながら修繕。修繕には1ヶ月半ほど要したが、利用開始から1ヶ月ほどで退去要請を受ける。</p>	 <p>新東名地域の住民がボランティアのサポートを受けながら修繕。修繕も2週間ほどで済み、大家さんの地域活動に対する理解も深く、長期間利用を行う予定であったが、大家さんが仮設住宅から高台の復興住宅へ入居するための法的事情によりあえなく物件の取り壊しが確定。</p>	 <p>待望の公的な集会所として2013年1月15日にオープン。工事は2012年10月下旬にほぼ完了しており、2012年内のオープンを見込んでいたが、運営体制の整備のためオープンがずれ込んだ。2013年2月25日より復興協議会から職員が常駐されているとのこと</p>					
	9								10/30	
	10									★野蒜復興祭
	11									12/17-18
	12					★新東名初訪問				
2012	1					3/2				
	2					★助成決定				
	3									
	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
	9									
	10									
	11									
	12									
2013	1									
	2									
	3					3/31				

 構築期間 (物理的)
 運用体制整備
 利用期間

3/31
★春休み1日カフェ

集まれる場所を得るまで

移動した場所は全て半径約250mの範囲に入ります



集まる場として整備するまでの活動（2012年2月～5月、計5回）

集まる場としての整備を行うまで引っ越しも含め、3ヶ月程度の時間を要しました。支援物資の展示場所としての機能もこの当初は求められてました。

チームとしての一体感や信頼関係構築のため、食を通じた交流の機会を作りました

- 地域住民の方に支援物資（特に衣類）を見てもらう場所としての整備

- ✓ 衣類を段ボールから手に取りやすく出し展示する
- ✓ 性別、年齢、季節などで分類し、ラベルを貼る
- ✓ 展示する場所を分類ごとでエリア分けする



- 設備としての場所づくり

- ✓ 津波の被害にあって抜けた床や壁を修繕
- ✓ 畳を床に合わせて切断し敷く
- ✓ 棚などの家具を作る
- ✓ コンセント、鍵など細かな箇所の修繕



- 食を通じた交流の開始

- ✓ お菓子教室の実施
- ✓ 新東名の方の郷土料理の差し入れ



場所を活用したイベントを企画（2012年6月以降、計4回）

場所に足を運んでもらうきっかけとなるように、外部の様々なチームと連携し場所を活用したイベントを実施しました。新東名側の直接的なニーズに合致し、大変喜ばれました。

主催者・参加者のほとんどが被災地に初めて足を運ぶ人。被災地に実際に赴き、その状況を自分の目で確かめ、その場で生活する被災者の方と直接お話を伺い交流をした体験を作ることができたことがそれ以上の成果であったと考えています。

✓ 6月16日 手作りカホンプロジェクト実行委員会
「カホンを作って遊ぼう」

✓ 9月23日 NTTデータけん玉研究会
「けん玉教室」

✓ 10月13日 ヘンテコ遊び研究所
「ウォーリーを探せ」

✓ 11月11日 岡さんの家TOMO
「遊ぼうパンを作ろう」



新東名主催のイベント企画の補助・参加（2012年7月以降、計5回）

お祭りイベントへの屋台出店のファシリテーションサポートや、昨年より新東名で住民主体ではじめた「夏祭り」企画への屋台出店を行いました。12月には新東名の方主催でイベントを企画して頂き、招待していただきました。

イベントの実施にも徐々に慣れ、新東名地域の団結力が上がってきています。「夏祭り」「牡蠣」「クリスマス」など季節行事として、来年度以降も継続して続けていくことのできる行事ができました。

- ✓ 7月1日 野蒜復興祭への屋台出店
- ✓ 8月4日 新東名主催「夏祭り」企画
- ✓ 10月14日 矢本子供祭りへの屋台出店
- ✓ 12月8日 新東名主催「殻付き牡蠣を食べる会」
- ✓ 12月23日 新東名主催「クリスマス会」



岡さんのいえとの交流（新東名2回、世田谷2回）

世田谷と新東名で姉妹拠点関係を築いていただくために、
地域共生のいえ「岡さんのいえTOMO」のみなさまと
新東名で交流を開始しました。
来年度以降も細く長く続く交流の形を考えていきます。

- ✓ 3月11日 岡さんのいえで公開審査会の内容報告、
新東名の動画中継
ディスカッション



- ✓ 5月14日 小池オーナー一家新東名来訪



- ✓ 7月21日 食飲快議に新東名から来た平田さん、阿部さんをご招待
- ✓ 7月22日 震災体験を語る会を開催



- ✓ 11月11日 新東名で「遊ぼうパン」のイベントを実施



- ✓ 岡さんのいえ新聞を新東名に届ける
- ✓ 岡さんのいえ新聞に、小池オーナーと上原の対談記事掲載
- ✓ こちカフェ隊メンバーの岡さんのいえの食飲快議への参加



岡さんのいえとの活動のふりかえり

岡さんのいえと新東名との交流も私たちの活動と同様に着実に進んでいます

年	月	新東名	岡さんのいえ
2011	10	★出会い	
	11		
	12		
2012	1	↓ 顔合わせ	
	2		★出会い
	3	集まる場の整備	
	4		
	5		顔合わせ 新東名⇔世田谷
	6	東京企画のイベント	
	7		
	8	新東名企画でのイベント	
	9		★岡さんの家新聞に対談記事掲載
	10		
	11		↓ 新東名で遊ぼうパンイベント
	12		
2013	1		
	2		
	3	3/31 ★春休み1日カフェ	★上北沢地域向けの冊子に対談記事掲載

3月31日 春休み1日カフェに向けて

「カフェ」というイベントを「みんなで作る」過程を新東名の方に共有しながら行い、イベントを企画するボランティアが居なくなった後も、新東名のメンバーだけで集会所でイベントを企画していくことの参考になれるように工夫をしています。宣伝・告知にも今まで以上に力をいれ、これまで地域活動に参加していなかった層も含めた幅広い層に集会所に足を運んでいただくきっかけとなることを目指します

- ✓ 新東名の方にカフェのコンセプトを説明。
集会所でカフェの一部となるイベントを開き、講師となって頂く

- 1月：スコーンづくり（講師：阿部さん）
- 2月：コースターづくり（講師：花坂さん、伊藤さん）

- ✓ 「みんなでカフェを作る」コンセプトとその過程を共有するための冊子を作成・配布

- ✓ スタッフお手伝い・クチコミ告知・チラシ配布要請
- ✓ 新東名北地域、1軒1軒へチラシのポスティング予定



当初計画との比較

4月～6月

- ・ 東名 : 場所への愛着を促すイベントの実施
(※内容は東名メンバーと相談して決定)
- ・ 世田谷 : 交流の開始 (新聞のやり取り、応援メッセージの送付など)

7月～9月

- ・ 東名 : 東名メンバーと共同企画のイベント実施 (※花火とBBQ等)
- ・ 世田谷 : 東名メンバーを世田谷に招いた交流、震災の話を聞く会を実施
★ 無理なく行えるコミュニケーション手段の確立

10月～12月

- ・ 東名 : 東名メンバー主体のイベント企画のサポート (上期の様子をみて)
- ・ 世田谷 : この取り組みを広くしていただくチャリティーイベントの開催

来年度くりこし

1月～3月

- ・ 東名 : 継続して地域コミュニティ定着の支援、情報発信の定着
- ・ 世田谷 : 活動の成果のまとめ

ふりかえり（そのほか）

✓ 達成できたところ

- 新東名地域の方との信頼関係の構築
- 「世田谷区」「まちづくり」という枠を越えた活動の広がり
- 被災地に行けなかった人と被災地の方との交流を生み出す

✓ 達成できなかったところ

- ボランティアをする側、受ける側という垣根を完全に越える
- 知人以外の参加者を受け入れられる運用体制の確立
- 世田谷区を災害に強いまちにすることに向けた活動

✓ 苦勞したところ

- 安心して使える場を得るまで
- コミュニケーションの時間差、距離差
- 月1回の被災地イベントの運営と会社員生活
- 助けすぎないボランティアであること

こちカフェ隊からの 災害に強いまちづくり提言

※補足

提言①～④は災害に強い「行政のしくみづくり」への提言

提言⑤⑥は、成果発表会の聴衆は世田谷で「まちづくり活動」をされている方が大半であるということを鑑み、「まちづくり活動」を「防災にも活かせる活動」にするための提言としています。

復興立ち上げのスピードアップのしくみづくりに向けた提言 ～非常時に活用できるソフトとハードの把握、マッピング、情報公開～

この活動は見ず知らずのものどおしではじめて為、
コミュニケーションロスやお互いを知らないことによる行き違いによる初動遅れが生じた。

お互いを知らなかったことによる初動遅れの例)

- 主婦が大工仕事が得意とは知らず修繕にあたって専門家を派遣することを想定
- 知り合って間もない相手と活動に対して大規模な募金活動を始めることにはためらいを感じた

既に持っているスキルを知っていて、信頼性がある関係性であれば、
もっと的確な支援を早期に行うことが出来たはず。

支援物資の収集、ボランティアの受入など、復興に向けた地域のキーマンとなり
うる人材の情報はあらかじめ行政に把握され、活用できる状態となっているとボランティ
アも入りやすい。

提言①非常時に活用できるソフト

- ・ ボランティアの受け入れ/派遣予定自治体の情報を公開
平常時からの顔の見える交流を促進

提言②非常時に活用できるソフト

- ・ 災害時のコミュニティリーダーを募集、スキル把握、教育、情報公開

復興立ち上げのスピードアップのしくみづくりに向けた提言 ～非常時に活用できるソフトとハードの把握、マッピング、情報公開～

支援物資の収集、ボランティアの宿泊、イベントの実施場所、会議や休む場として公的な集会所が作られるまでの間にも一時的にでも集まる場としての空間は必要。

市民レベルで今回のように空き家を集会所とするには理解のある大家を探し、適切な契約を結ぶことが難しい。

災害前から、これら臨時集会所の候補となる物件をあらかじめ調査の上、行政がしかるべき契約を結んでおくことで、負担は軽くなる。

臨時集会所の候補物件の例)

- 災害に残る可能性が高い物件
- 災害時も空き家である可能性の高い物件集会所向きな物件
- 地域活動に理解のある貸し主

提言③非常時に活用できるハード

・災害時に支援物資や情報伝達やコミュニティ活動を行う拠点となりうる場所の調査、事前契約の実施

提言④非常時に活用できるハードとソフトのシステム化と教育、啓蒙

・災害時に供えたこれら仕組みがいつでも機能するように定期的な情報更新と訓練・啓蒙の継続

災害時にも役立つまちづくり活動への提言 ～効果的に外部支援を受け入れる～

災害復興に向けて、ボランティアの力は草の根レベルで大きい。
ボランティアとの上手な連携を行えることが復興へのキーとなる。

見ず知らずの世代も異なる他人を受け入れることには、
相手の時間感覚や考え方を尊重する配慮が必要。
平常時に多世代と協力してプロジェクトをすすめる経験が役に立つ。

提言⑤ 災害時に役立つまちづくり活動～外部支援を入れるスキル～

- ・ 見知らぬ人や他世代と協力する／支援を仰ぐスキルを向上する
 - － 主婦・学生・高齢者と社会人とでのイベント企画講座
 - － ライフスタイルが異なる者が中心となる他団体と連携するまちづくり活動へ補助
 - － まちづくり拠点に他地域からのボランティア受け入れ

災害時にも役立つまちづくり活動への提言

～実行力となる層を取り込む～

新東名では実行力となる若い世代の地域活動への参加がなく、ボランティアで補っている状況。

ボランティアはいつまでも居る存在ではなく、本来地域に近い若い世代との連携を強めておくことが必要。

若い世代には「まちづくり」というキーワード自体が響かないことも多く、形態を変えたアプローチも必要。

提言⑥ 災害時に役立つまちづくり活動～実行力となる層を取り込む～

単身者・在勤者・企業とまちづくり活動をつなげる

- ターゲットを絞ったまちづくり活動への啓蒙活動
- 時間・場所を変えたまちづくり活動（ex, 夜のバー、朝の公園）
- 区内企業とまちづくり活動の連携（ex, オフィス環境の区民解放支援、区の地域行事の広報）
- 若い個人事業主へのアプローチ（ex, 空き家・まちづくり拠点のノマドオフィス化）